



ひらかたパーク早朝ローズガーデン
2024年5月10日 撮影／松村良男



- ✎ 言いたい放題！アッキー28号（64）里山マルシェで
- ✎ STEMz マンガ文庫 蔵書紹介番外編
～お金をテーマにした作品～
- ✎ 大阪地方裁判所と大阪高等裁判所で争われている
原発賠償訴訟の傍聴に行きました。
- ✎ 今月の五行歌
- ✎ なんちゃって農業女子(34)
- ✎ 五行歌連作 ご近所にミサイル弾薬庫 1
- ✎ イベント紹介／会計報告／編集後記

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス：lip@love-dugong.net

TEL：070-5653-6913（18時以降）



今年のゴールデンウィークは、映画を観たり、5年ぶりの同窓会に参加したりして過ごした。文化の日には昨年亡くなった義母と、義母が17年大切に手元に置いていた義父のお骨も共に近くのお寺の墓に納骨。無事に終わってほっとした。

翌日から夫は2回連続で24時間勤務。朝7時過ぎに昼と夜の弁当を詰めて送り出せば、あとは私の自由采配だ。外出大好き人と会うのが大好きな、障害を持つ上の子にはガイドヘルパーを手配して、「行ってらっしゃい〜!」で、お互いニコニコ。

連休前半と打って変わって好天が続く。3月末に罹患した新型コロナの後遺症が、疲れやすくなっているのだけれど、今日は穂谷・里山マルシェに行こうと。

わが町南東部の穂谷（ほたに）地区は、棚田や雑木林など里山景観の残る緑豊かなところで、「にほんの里100選」にも選ばれている。『LIP』3月号に載っていたように、そこで春と秋毎月「里山で遊ぼう」と穂谷・里山マルシェが開かれているのだ。

実は、3月30日前回のマルシェに行く予定だった。ところがその前日まさかのコロナ発症。「3月下見に行って、いい感じなら、5月に五行歌の吟行や青空五行歌教室など企画しよう」というもくろみはスタートからとん挫。穂谷のすぐ近く、尊遠寺在住の歌友さんから「いいところですよ。一度皆で来て歌会して!」と繰り返し言われ、すっかりその気になっていたのに。

リベンジやもんね。体調が大丈夫が行く直前まで迷っていたけれど、しんどくなったらす

言いたい放題! アッキー28号 (64)

里山マルシェで



ぐ帰ろうと決めて、家の近くのバス停まで20分歩いてバスに乗り、40分余りバスに乗り、穂谷へ。

バスを降りると見渡す限りの緑だ。わく、すご〜

い! バス停の前に公民館があり、その横にでっかく「トイレ」と男女のマークが書かれているのに感心した。

さて、会場はどこかな? 3月号の地図を見るとすぐ近くのようだけれど、目印になる農業倉庫とか駐車場がわからない。一体どっちへ行けばいいの? 焦って主催者に電話して、「すぐ前にある自販機の前の道を曲がって……」と教えてもらった。

その通り道をたどると、なあんだ、あそこ! 坂道を降りた下の方に、普段使われていないという広い駐車場があり、そこにテントがいくつか。緑にオレンジの文字で、「里山マルシェ」ののぼりが風になびいている。でも、意外に人、少ないじゃん!?

「子ども食堂」のテントの受け付けで名前を書き、自己紹介すると、「どうぞどうぞ」とテントの中に入れてもらい、「今お餅焼くからね」とおふるまい。活動のことは知っているけれど初対面の方々なのに、なぜかすぐに打ち解けているいろいろお話。「あら、お久しぶり〜!」と、隣のテントから「遊びのプロジェクト」のNさんがやってきて、お互い高齢の親を見送った話など3人で。

「おいしいよ」と聞いて、昼食は手作りのウリちゃんカレーをゲット。香草入りのリボンパスタもお土産に。近在農家のイケメン兄さんが鳥

骨鶏のつがいを連れ、箱一杯の新玉ねぎを持ってきてくれて、「袋いっぱい詰め放題しよう。300円でいいよね!」提案するのは子ども食堂の主催者さん。お連れの小学生と私は、小さな白い2匹の鶏と遊んだり、「青空書道教室」の先生おしゃべりしてみたり。

大型連休で家族で遠出する人が多いのだろう、兄さん曰く「殆ど出店者の方ですよ〜」。その分のんびりできて、5本指靴下を買ったら1時間で帰るつもりが、3時終了の最後まで楽しく長居してしまった。

穂谷には、中学1年の時文化祭で取り上げようと数人のグループでやってきて、道に迷い、崖のようなところを滑り下りたら、私だけ滑り「落ちて!」下の道路の側溝でけがをしたという暗い過去がある。半世紀も経てば、そんなことも笑い話だ。あのとき手当してくれたワングル部のM子ちゃん、どうしてるかなあ。久しぶりに思い出した。帰りのバス停では、「新潟から2週間前に引越してきて、枚方で買物した帰りにバス乗り間違えて、こんなとこまで来ちゃった〜」という女性とバスが出るまで楽しくおしゃべり。

一期一会のこういう出会いが嬉しいんだよね。玉ねぎとパスタの入ったカバンが重いけど、心はウキウキ。帰りは国道沿いのバス停で降りて、違う道から家に帰った。

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。

放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』代表

<https://ameblo.jp/challengekids81573/>

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介番外編 ～お金をテーマにした作品～

今回はマンガ以外の作品を紹介します。いつか子どもたちが興味を持ってくれたらな～と思って電子ではなく紙の本です。お金の仕組みや役割は普遍的…だったようで、今回紹介する2つの作品は、20年以上も発行された年が違いますが中身はさほど変わらなかった…!!そんな発見のあったタイトルをご紹介します。

きみのお金は誰のため 著：田内学 2023年

『きみのお金は誰のため』は、元ゴールドマン・サックスでトレーダーをしていた田内学氏が、中学生の優斗と投資銀行勤務の七海を主人公に、お金の本質と社会の仕組みをわかりやすく解説した青春小説です。

ここで、青春小説と聞いて違和感はありませんか？そうなんです、ビジネス書でも、ノウハウ本でもなく、この作品はお金をテーマにした“青春小説”なのです。

多くの人、特に若い学生に読んでもらいたいという思いで田内さんが小説にされたそうです。でもそういう作品って、「学べるけどストーリー的に面白くないよね」だったり、「なんか説教くさいよね」だったり、中身と体裁のバランスが悪くてテーマは面白いけど、小説もどき、マンガもどきになっている作品が多いのも確か。はてさて、この作品はいかに…？

さて、この作品には3つの謎が出てきます。
 一 お金自体には価値がない。
 一 お金で解決できる問題はない。
 一 みんなでお金を貯めても意味がない。

さあ、これらの謎に明確な答えはあると思いますか？「お金があればなんでもできる！」と思ってしまいうけれど、カラクリを知るとなぜか社会が見えてくる…？ぜひ、手に取って読んでほしい！そして、身近な人と読んだ感想を話し合ってほしいなと思います。



経済ってそういうことだったのか会議 著：佐藤雅彦・竹中平蔵 2002年

『経済ってそういうことだったのか会議』は、佐藤雅彦さんと竹中平蔵さんが、それぞれの専門知識と経験を活かし、経済の基本的な仕組みをわかりやすく解説しています。タイトルにある「会議」というか「おしゃべり」を通して、二人が対話形式で議論を進める形で進んでいく珍しいタイプの書籍です。難しい言葉は少なめで、あったとしても注釈や解説

が盛り込まれているのでとっても読みやすいです。身近なトピックから専門的な話にシフトしていくので入り口はライトで、だけど読み進めていくととってもディープな話に繋がっている…、そんなこんだで自然に経済の基本概念を学ぶことができます。

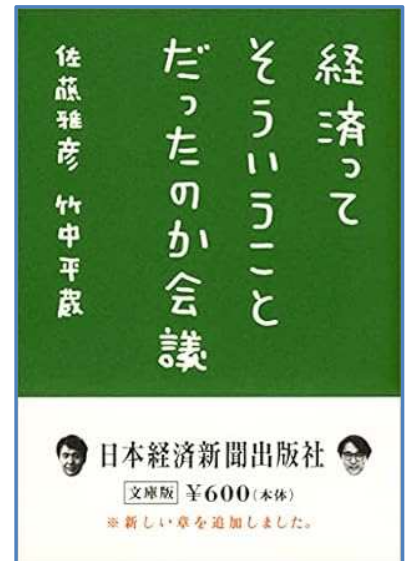
この作品には、書籍の中に出てくる直筆のイラストや一コママンガ、そして対談の中で佐藤氏が感銘を受けた言葉が『竹中語録』として登場するのですが、これがまた秀逸！一つ一つの語録を読んでいるだけで、経済の奥深さを深く深く感じられます。

私が気に入っている語録の一つが『日本が生きる道というのはプロフェッショナルリズムを一人一人が身につけていくことしかない』っていう言葉なんですが、マジで20年以上も前の言葉とは思えない！

竹中平蔵氏といえば小泉内閣のときに、派遣の拡大や郵政民営化といった小泉改革を牽引した一人とも言われていますが、よくよく考えると、派遣＝非正規が拡充したことと、賃金待遇が下がったことをイコールで見ていること自体がおかしいことなんだと気づきます。

非正規でも正社員と同等の働き方、待遇が当たり前の国は確かにあって、待遇格差を生んでいるのは企業であり、システムなのだとは思うのです。

すごい久しぶりにこの本を引っ張り出してきたので、もう一度読み直してみようと思います！きっと新たな発見に出会えるのではとワクワク！



(みんなでつくる学童STEMs そふえ)
 [STEMz マンガ文庫]で検索！

大阪地方裁判所と大阪高等裁判所で争われている 原発賠償訴訟の傍聴に行きました。

2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが、東電、あるいは東電と国に対して、全国で損害賠償の訴訟を起こしています。関西では、関西訴訟（大阪地裁）、京都訴訟（大阪高裁控訴審）が現在係争中です。

～「人の命」と「健康」と 「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判～ 原発賠償関西訴訟第46回期日の報告

4月25日（木）大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第46回期日が開かれました。この日の期日は中法廷で行われ、傍聴席は15席（後に+3席）、傍聴希望者は40人。抽選に外れ傍聴できない人たちのために、すぐ近くの弁護士会館の一室で法廷外企画が行われ、フランスから来日中の核処理施設反対運動をしているフランス人お2人から、現地での活動についてのお話を聞きました。

法廷では、午前中2人、午後は3人の原告が、本人尋問に答えました。

故郷は遠いが、夫と2人の子どもと共に自然豊かな福島県で、友だちにも恵まれ、休日は家族そろって出かける生活だったと原告代理人の尋問に答えて語る原告女性。地震に続く原発事故で、それが一転。故国の大使館から希望者は航空機で避難できると通知が来たが、パスポートの期限が切れていてその選択肢はなかった。米国も自国民に半径80km圏内からの避難を勧告した。一刻も早く避難しないといけない……。海外出張中の夫と連絡がつかぬまま、知人を頼って子どもたちと共に関西に避難。しかしようやく連絡がつき帰国した夫とは意見が合わず、最終的に別れることになった。生きることはこんなに辛いのだ……。自ら生命を断つひとの気持ちがよくわかったと語る原告。「自然災害なら時間をかけ努力すれば復興できる。しかし、原発事故は違う。もし事故がなければ、家族一緒にいつもの暮らしができたはず。国は、事故は収束したと安全宣言を出しているけれど、東電の偉いさん、あなた方は自分の大切な家族と福島に来て10年も20年も暮らしますか？」傍聴席からはすすり泣きの声。高い席にいる3人の裁判官の下でパソコンに向かう女性書記も顔色を変えていました。

別の原告女性は、1歳の子と共に母子避難しまし



入廷行進

た。知人もいない大阪で、言葉の違いに苦しみながら、子を預け仕事へ。熱を出したと何度か保育園から電話がかかり仕事を抜けると、「もう来なくていい」と解雇。次に得た仕事でも同じようなことに。

「息子を一番に」と考え避難した、避難に反対の夫とは離婚した、そうして避難先では日々の暮らしと孤独に打ちのめされ、夜子どもの寝息を見つめようやくほっとする生活。やがて府営住宅の無償提供が打ち切られ、以前住んだことのある宮城県に引っ越ししました。「大阪での生活は辛くて怖くて、もう思い出したくない」。そう語りながら、勇気を奮いこの日大阪地裁で尋問に立ちました。

「事故のニュースを見て、夫婦共に恐怖でいっぱい。子どものことを一番に考え、妻の実家の近くに子と妻を避難させた」。「もう戻ることはない、避難前に住んでいた、亡き夫との思い出の残るマンションを最近ようやく手放しました」。原告一人一人、家族との関係や境遇はそれぞれに異なりますが、原発事故で生活ががらりと変えられ、子や夫婦共々苦しんだということは共通です。

原告代理人の尋問に答える形で事故時の状況やその後の生活の様子などを原告が話し思いを語ると、続いて、東電代理人、国代理人から尋問を受けます。そこでは、原告が女性であれば夫との関係を事細かに聞いたり、夫の勤め先の企業があからさま

にわかるようなほのめかしを言ったりと、プライバシーの侵害ではないかと思うようなことがいくつもありました。ガイガーカウンターの値が高くて驚き避難を考えたとき具体的な数字を述べた原告に対して、「ガイガーカウンターの正しい扱い方をご存じですか?」と被告代理人が問い、「もちろんです!」と憤然と原告が答える場面も。

お昼休みと法廷の終わった後には弁護士会館でミニ報告集会が行われました。

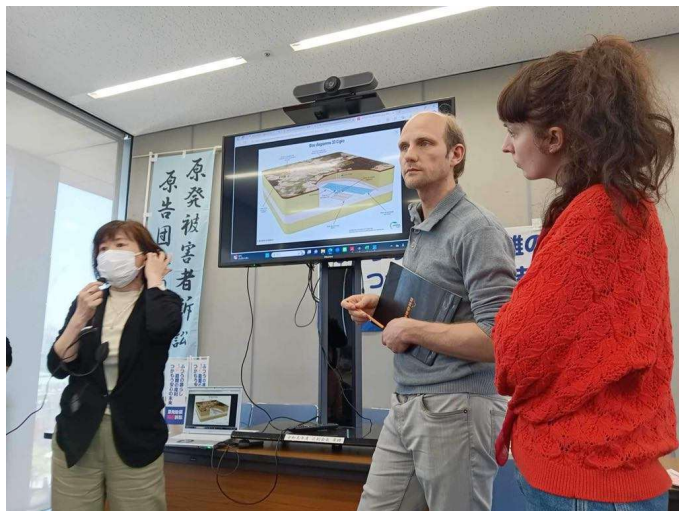
次回第 47 回期日は 5 月 30 日 (木)、第 48 回期日は 7 月 11 日 (木) です。いずれも大阪地方裁判所大法廷で、10 時から午後 5 時まで行われます。

**原発賠償京都控訴審訴訟は
第 22 回期日で結審。
ひょうご訴訟は、控訴審に進みます**

5 月 22 日 (水) 午後、原発賠償京都控訴審訴訟第 22 回期日が大阪高等裁判所で開かれました。この日が結審ということで、11 時半から裁判所前の公園でアピール集会が開催され、集会終了後集まった約 300 人の人たちは、THE BOOM の「風になりたい」のメロディーで「原発がなくても、幸せを感じる♪そんな未来信じて♪」などと歌いながら、赤い風船を手に持ち裁判所の周囲を行進しました。午後 2 時から予定の期日は、傍聴席 80 に対して傍聴希望者が 204 名。裁判所が準備していた抽選券が足りず追加で発行されるなどで、10 分遅れの開廷となりました。

法廷には、福島からの 6 名を含め原告 28 名が出廷。まず 30 分の原告意見陳述で、福島県外からの避難原告、福島に帰還した原告、そして原告団共同代表 3 人のリレー陳述が、各々 10 分行われ、最後に弁護団からの最終意見陳述で、結審となりました。「判決の言い渡しは、12 月 18 日 11 時」と裁判官が述べると、おおっと驚きの気配の漂うなか閉廷。

その後中之島図書館の一室で報告集会が行われました。まず、弁護団からこれまでの裁判の経過を振り返り*。「やれることは何でもやった」と原告から一言。続いて、福島、群馬、名古屋、広島、神奈川など全国各地で同様の訴訟を闘っている原告や代理人から応援激励のメッセージ。記者会見から原告や代理人が戻ってくると、一人一人今日の感想を述べ、事故当時 10 代だった原告も成長した姿で自らの言葉を語りました。最後に支援する会のスタ



アレクシーさん、ジョエルさんと、通訳を務めてくださった小橋さん。フランスも警察の弾圧等があり、大変だそうです。核廃棄物は鉄道を延長して貨物列車で運ぶ計画で、最近土地を買って村に住み着き反対活動をされている方もいるのだそう。

ップ 10 名が前に立ち、「12 月の判決まで、これからが闘いの本番です。今日より『1 万人のハガキ運動』、裁判所前でのアピールや、街頭宣伝、署名活動を続け、公平な裁判を求めて世論を喚起していきましょう」と締めくくり。12 月 18 日笑顔で会いましょうと集会を終えました。

*東電と国は区域外避難者に対して支払うものは一切ないとして、これまでに払ったものは返してくれというような主張を行っています。原告と弁護団はそれに対して、区域外とされる地域からの避難者も被ばくにより生命健康の侵害を受けている、健康に生活する権利は誰にでもあると主張してきていますが、国や東電は区域外避難者の損害をほとんど認めようとしていません。京都訴訟の場合、区域外からの避難者が原告の多数を占めているのですが、避難区域内外で著しい分断があり、区域内避難者には基本月額 10 万円の補償金が認められていたりしますが、区域外避難者に対しての金銭的補償は非常に乏しい。これに対して、京都訴訟では全避難者からアンケートを取ったり、また首都圏の大学研究者の行ったアンケートによっても、区域内と区域外の避難者の PTSD (心的外傷後ストレス障害) には全く遜色がないことが分かってきています。

なお、『L I P』4 月号でお伝えしたように、3 月 21 日神戸地裁で、東電に賠償責任を認め国の賠償責任は認められないとした判決が下りたひょうご訴訟は、控訴することを決定、現在準備中です。今後大阪高裁で控訴審に臨むことになります。

(文・豊高明枝 写真・堀越善孝)

LIPが選ぶ 今月の五行歌

コロナ禍から
知り合った人たち
マスクを外したら
アレッ
こんな顔やったんやー
ちえこ

年齢も言葉も
違っているも
心に壁はない
夜間中学で学ぶ
心は、一つ
貢

今年も帰って来た
軒下の同じ巣に
ツバメ
ふわり

巣をリノベし終えて
気持ち良く子育て

五行歌（ごぎょうか）とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。
(連絡先: akie:toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

No.34

なんちゃって農業女子(笑)

前回から「新転地（青谷）」での畑作業がスタート……と思いきや、ほぼほぼ「草刈り」と「溝掘り」作業ばかりです。という私の農業風景でした。写真①は、新転地での私の相棒「芝刈り機」です。この芝刈り機で、ただただ広い田んぼ地を来る日も来る日も草刈りに邁進の日々です。相変わらず、最初のエンジンをかけるのは苦手で毎回誰かに応援を頼みますが、それでも頑張っ草刈りの日々。

その他、新転地では水の確保（ポンプ）写真②のように、なつかしい手押しのポンプが一旦つけてもらえ、き

れいな水が出るようにはなりました。農作業には「水」の確保は必須ですから、それはとても有り難いです。

しかし、雨が降ると、水が溜まり（たまるという程度のもではなく……）水浸しの土地を何とか水がはけるように、溝を切る作業の連続です。そもそも「田んぼ」だった場所を畑に転用しようとしているので、傾斜がなく、水が流れていくようにするには、溝を掘りつつ手前から順番に溝の深さを深くして人工的に傾斜をつけるしかないのです。

わかりずらいかもしれませんが・写真③のように、5月中旬からようやく畝作りも出来たけど・合わせて、溝掘りと草刈りは、日々の仕事です。とりあえず6月からこの畝には「さつまいも」の苗を植え付ける予定です。去年の植え付け時に、「二条植え」と言って、大きめの畝に、二筋に苗を植え付ける方法で、その時に二本とも同じ方向に苗を植えるのではなくて、一本は前向き、もう一本は後ろ向きに植え付けたら、収穫量が多かったので、今年もその方法を取ろうかとは思っています。文章での説明だけでは分かりずらいですね(笑)

実際にこれから植え付けを行いますので、その様子は次号にて写真とともにお伝えいたします。

まだまだ本格的に野菜作りが出来ない畑ではありますが、次回もお楽しみに。（へそくん）



五行歌連作

ご近所にミサイル弾薬庫 1

桑本明枝

すぐ近所に
でっかいミサイル弾薬庫が
建設予定というのに
みんな知らん
あまりの平和感に怯える
ひたひたと近づいて来る
戦の気配 感じないのか
「平和でよかったです」
黄金週間 テレビに映る
笑顔の家族連れ
気づくひとは
幸いなり
いや、災いか
カサンドラのジレンマ
聴く耳持てよ、皆
もしも攻撃を受けたら
或いは事故でもあれば
半径十キロは火の海だと
ついに 我ら
当事者となる

当事者となればこそ
いやだ

と言える

腹の底から声が出る

恐ろしい 絶対いや

ひたひたと

遠くから聞こえていた

不吉な足音

ぴたり止まると

ひやり腹の横 冷たい銃口

爽やかな五月の風

テレビのニュースに映る

家族の笑顔が

あまりに無防備で

ふるえる

白いウサギが駆ける

茅野の向こうから

迫る火

戦に戦にと駆り立てられた

皇(すめらお)の尊(みこと)の幻

おばさんが叫ぶ

おじいさんも拳をかざす

うちの街に弾薬庫は要らんと

腹からの叫びが街に轟く

そんな明日をめざす

(2024.5.3 9首)

※カサンドラのジレンマ ギリシヤ
神話に登場するトロイの王女・カサンド
ラ の 故 事 か ら、ある人が正当な不安や警
告を発してもそれが他人に信じてもら
えない現象をいう。

イベント・サークル・ボランティア情報

【参加者募集】 放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」
情報交換・交流会

日 時：6月14日(金) 10時30分～15時くらい(遅刻早退OK、
出入り自由)

場 所：ラポールひらかた 4階 研修室4

参加費：無料

主 催：放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

問合せ：c-k@love-dugong.net または、

090-5893-5635 (16時以降 豊高)

(予定変更の場合もありますので、必ずご確認ください。)

子どものことで、迷ったときに相談したり、悩みを打ち明けられる
場があればいいなあ……。そんな思いで集っています。

支援者を交えて、気楽におしゃべり情報交換しませんか。

下記ブログにて、随時情報を掲載しています。

<http://ameblo.jp/challengekids81573/>

(「チャレンジ・キッズ」「アメブロ」で検索してください)

沖縄・南西諸島・祝園へと広がるミサイル配備・基地強化

◆日時 7月7日(日) 14:00～16:00

◆場所 交野市ゆうゆうセンター3階研修室
(JR 河内磐船駅から徒歩5分)

◆講師 西岡信之さん(元中経国際大学平和学講師)

◆参加費 500円

◆連絡先 072-892-4938(松林)

◆主催 憲法とくらしを考える会

イベント・サークル・ボランティア情報

【枚方自閉症児（者）親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリースペースで参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。

◆日時：5月31日（金）10：00～12：00

6月17日（月）10：00～12：00

◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 春名 072-397-0053 三浪 072-868-9929

メンタルケア短期講座 ～講座体験&受講説明会～

内容：身近な人や職場、地域社会における心理支援や
対人関係の改善を目的とした短期講座

◆日時：6月13日（木）10：30～12：00

6月20日（木）19：15～20：45

◆場所：ラポールひらかた

参加費：無料

定員：各15名

申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング

TEL 072-814-7140

メール jimu@npk-ksc.net

http://www.npk-ksc.net

【毎月第1日曜日 開催】

がんサロン ソシオ 13:00～16:00

参加費 500円（ワンドリンク付）

◆がん患者様やそのご家族・ご友人が集う場所

◆ハンドケアを受けながらお話しできます

◆看護師・ソシオエスティション・認定心理士常駐

AYA語り BAR 17:00～20:00

参加費 1000円（おつまみ付）

好きなドリンク持ち込み可

◆AYA世代（15歳～39歳）のがん罹患者さんの語り場

◆アピランスケア（外見の変化による苦痛の軽減ケア）など外部講師から受ける機会を企画

がん患者さんとそのご家族、関係するすべての人に、自分らしく過ごしてほしい……そんな思いからこの場は創られました。

ひとりで悩んで辛くなってしまうこと、お互いに話したり、聴いたりしませんか？ 一緒に泣いたり、笑ったり……そんな、心が繋がる時間を過ごせる場所です。

◆開催場所 Rose スイートたいむ

◆連絡先 枚方市長尾台3丁目28-35 072-807-3216

reconfort234@gmail.com

◆最寄り駅 【京阪バス】大阪国際大学徒歩5分

映画『教育と愛国』教科書でいま何が起きているのか 上映と斉加尚代監督のお話

◆特別ゲスト 久保敬さん

◆日時：6月2日（日）13時開場/13時半上映開始

◆場所：ゆうゆうセンター交流ホール

◆参加費 ¥1000（中・高・大学生半額）

（斉加さんと久保さんとのトーク付き）

◆主催 交野「教育と愛国」を上映する会

学校は、どうしてこんなにも息苦しくなったのか？

長年つわたり、大阪の教育問題の取材を続けて来られた斉加尚代さんならではの映画です。

応援よろしくお願いします♪

L I P 応援団

L I P 会計報告（前号以降）

金額(円)	内容
59,401	前号から繰り越し
▼3,872	5月号印刷用紙代
▼500	ロッカー代
▼1,240	5月号印刷代
▼364	郵送代
53,425	計（次号へ繰り越し）

STOP WAR NOW STOP WAR NOW

◆L I Pの月1回の折り込み作業やりたい方、大募集中。
毎月最終土曜日の10時～11時くらい。サプリ村野でやっています。

◆最近、気温測定に凝ってます。ブルーーツースでデータを取得できる安価な防水温湿度計を手に入れたので、それを自宅マンションのベランダに置き、室内でデータを取得、同時に、アメダス枚方のデータもネットで自動取得して、比較グラフを24時間記録させてます。そうしてデータを眺めてみると、いろいろ不思議な現象を発見。意外とアメダスデータは上下動が大きいこと。ベランダデータとは温度差がけっこうあること。マンションベランダは、熱くなりやすく、冷めにくいデータになっていること。そのため、5月だと、昼間はマンションベランダの方が涼しかったり。当然の結果とも言えるのかも知れないけど、これまでの思い込み、予想と違う結果もあって楽しめます。今後、夏場のデータはどうなるのか、ドキドキワクワクしてます。
<w>

◆L I Pは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか？♪



枚方コーレン

デビューしちゃう？

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ⇒⇒



イラスト

表紙：平井由恵